

単元（題材）目標

- 様々な障がいについて理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。
- 人間一人ひとりが、かけがえのない存在であることを理解し、学級の活動にいかす。
- 手話に対する関心を深める。

（１）実施時期

1月中旬

（２）対象（学年等・人数）

第3学年 38名 教員2名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教員2名

（４）実施内容

①手話について

字の由来，使い方

②耳が聞こえなかったらどうなるか？（質問形式）

③今使われている耳の聞こえない人の為にあるもの

フラッシュランプ，聴導犬 等

④手話の動きの意味

⑤二人一組になって，手話で名前や家族の人数等の簡単な自己紹介をする。

（５）成果

- 日本で手話を使う人が34万人いること等，具体的な事例を取り入れた説明が多かったため，手話に対する興味が広がった。
- 手話の動きの意味を示しながら説明したため，手話に対する理解を深めることができた。
- 会話形式で自己紹介をしようということで，手話でのコミュニケーションの楽しさを味わうことができた。

（６）その他

自分の名前を答える為に，あいうえお表（ゆびもじ五十おん）等のプリントを配付した。